

発行責任者

石垣 英明

〒192-0906 八王子市北野町531-1
TEL 0426-45-1085



平成12年度総会のご案内
20世紀最後の総会

関東浪速工業会

今年度の総会を下記の通り開催いたしますので、ご多忙中のことと思いますが、万障お繰り合わせの上ぜひご参集ください。

★ 日時:11月16日(木) 18時15分~21時まで

★ 場所:(市ヶ谷会館)グランドヒル市ヶ谷

2階 芙蓉の間(JR市ヶ谷駅徒歩約5分)

電話 (03)3268-0111

住所 新宿区市ヶ谷本村町4-1

★親睦会費:8000円(女性会員及び、同伴者は5000円)

★親睦の輪を深めるためのアトラクションを企画しております。

★同封の返信はがきに出欠をご記入の上必ず投函してください。

皆様お誘いあわせの上多数のご参加をお待ちしております!!



平成11年度関東浪速工業会総会出席者名簿
昨年の総会出席者の名簿は左記の通りです。この名簿をご覧になり、もし同期の人が出席されたいましたら、お互い声を掛け合ってください。ご出席いただければ幸いです。

末賈 西岡武治 蔵敷重壽	理事長、 学校長、	清水勝年 近江巴記夫	理事 衆議院議員
建理科 A 1 3 A 2 5 A 2 7 A 2 8 A 3 1 A 3 8 A 4 5	鹿山富士夫 西坂 勲也 田中 瑛也 酒井 保夫 栗山 忠夫 岩井 浩一 渡辺 隆	A 1 5 A 2 7 A 2 8 A 2 9 A 3 7 A 4 5 A 5 7	松原 正 清井 英治三 近江巴記夫 森 芳信 田辺孝次 信原利行
機械科 M 1 4 M 1 8 M 2 0 M 2 6 M 3 4	松原 滋 小川勝宏 熊澤正雄 玉城元市郎 石川 芳夫	M 1 7 M 2 0 M 2 6 M 2 8 M 4 2	横山武男 宮嶋信雄 上田英雄 橋本健治 前田範行
電気科 E 4 E 1 6 E 2 6 E 2 9 E 2 9 E 3 5 E 3 6 E 3 6 E 4 7	元木光之助 戸部 暢 丸尾孝信 岩崎亮平 川村 榮夫 田中 浩 石垣英明 竹村繁幸 松本 進	E 1 3 E 2 0 E 2 8 E 2 9 E 3 0 E 3 6 E 3 6 E 4 6	笹本克己 佐良 鍋 有井 章 小林孝栄 小向郁夫 赤尾仁史 馬場 喜修 高倉 修
土木科 C 9 C 1 8 C 2 4	西谷通晴 北里直行 土谷 寛	C 1 8 C 2 0 C 3 0	太田 清 榎本嘉徳 明見和彦
工業化学 CI 3 2	松井駒治	CI 3 9	藤田 忠

KDDオーシャンリンク
海底ケーブルシッピング見学会

E 36 馬江治喜

関東浪速工業会の行事として、本年8月1日(火)に最新鋭のハイテク技術を駆使する海底ケーブル敷設・修理船「KDDオーシャンリンク号」の見学会を開催いたしました。当日は、夏本番、炎天下にもかかわらず、関東各地より多数お集まりいただき、高い関心を持っていただいたことに事務局としてうれしく思いました。

今回の企画はE36卒の石垣関東浪速工業会長のお世話によるものです。見学ができるかどうかは船の外洋での作業スケジュール次第ということですが、見学会を企画したものの本当に実現できるかどうか、やきもきいたしました。でも天候にも恵まれ成功裡に開催できました。

船は約9600トンで、竣工は平成4年2月29日です。国際ケーブルシッピング会社の方から懇切丁寧な案内の施設を案内していただきました。操舵室、ケーブルシッピングの管制室、レーダー設備ならびに、光海底ケーブル敷設用のケーブルエンジンを見学しながら、船長さんからケーブル修理・敷設時の苦労話をお聞きました。見学会が終わって、海外と良好な通信を維持するには、このケーブルシッピングの役割が欠かせないこと、また、海底で光ケーブルの修理をするのは大変な苦労があること

を改めて実感した次第です。今回は、小学生の参加(2名)もあり、本見学会が夏休みを利用したよい社会勉強の場となったのではないかと思います。当日の見学会参加者は左記の通りです。(敬称略)

- (M16)若狭仙治(M18)小川勝宏
- (E18)平野栄一(A25)西坂 勲
- (M26)上田英雄(M28)橋本健治
- (A28)酒井 保(E29)川村 榮夫
- (E29)岩崎亮平(E33)奥中敏弘
- (E36)竹村繁幸(E36)石垣英明
- (E36)馬江治喜
- (C14)柴田孝次(同伴者一名)
- (E55)植村信夫(小学生同伴)
- (A57)信原利行(小学生同伴)



「オーシャンリンク号」

甲板で全員で記念撮影

我会員から76歳の工学博士誕生

E 13 笹本克己



その人はE16卒の我が会員、戸部 暢氏です。(春日部市在住)戸部氏は戦後永らく(株)精研に勤められ、同社の取り組んだ「地盤凍結法」について極めて重要な立場で地道な研究を続けられ、最近では東京湾横断道路工事においても重要な工法として採用された。その理論解析や実験の繰り返しなどの成果を積み上げた貴重な論文が今年、群馬大学工学部研究科委員会承認されて、晴れて工学博士の栄誉を授与された。同学部によると学位授与者ではこれまで65歳が最高齢の由、また旧制の工業学校の卒業生に対する学位授与のケースは極めて稀なことで、まことに「同慶のいたりです。戸部さんは博士号の授与について「論文にまとめる作業は大変でした。長年の研究が認められて本当にうれしい。実際の工事に即して研究したもので現場で役立ててもらえれば」と語られ、現在もお元気で非常勤の技術指導をなさっております。



A 37 森 芳信

今回の催しは陶芸家として活躍されているA4卒の柚木寿雄氏の御厚意により実現しました。

9月30日(土)の午後、氏の工房「自遊工房」に希望者15名が集まり、柚木氏とスタッフの皆さんによる御指導のもと、各自思い思いの作品に創作意欲を燃やし粘土との格闘!、慣れない手つきながらもそれ程何となく湯呑み、コヒーカップ、皿、灰皿や道祖神・?等々3時間程かけて完成。

出来栄に満足げな顔、又少々渋い顔つき等様々でしたが、陶芸の世界の楽しさの一面に触れることの出来た大変楽しいひとときでした。柚木さんそしてスタッフの皆さん、貴重な体験させていただき誠に有り難う御座いました。

場所を変えての懇親会は、制作の興奮の残るなか後日届けて戴く焼き上がった作品の姿を想像しながらまずは乾杯。後は「都工の絆」先輩後輩屈託なく、時間の経つのも忘れて話はずみ盛会裡に終えることが出来ました。

関東青葦会幹事一同、来年も又多くの会員の皆さんに興味をもって参加頂ける様な催しを企画したいと考えております。

参加者

- A15・松原正 A20・鏘之原捷夫 (同伴者2名)
 - A25・西阪勲
 - A28・岡田宏三 (同伴者1名)
 - A28・酒井 保 A28・森田幸博
 - A37・森 芳信 A38・岩井浩一
 - A44・水守恵子 A45・田辺孝次
 - A47・西口勝臣 A57・信原利行
- 計15名

「青葦会基金のお願い」

既に皆さんのお手元に「青葦会基金」のお願いが届いていることと思えます。関東地区の皆さんから基金に協力戴いた分につきましては、その内より一部を関東青葦会の活動資金として還元される予定です。是非皆さんのご協力宜しくお願い致します。尚基金の募集締め切りは本年12月末日となっております。



陶芸体験会参加者の記念撮影写真

「平成12年度樋口賞決まる」

平成12年度の樋口賞の審査委員会においてE20年卒業の眞鍋静夫氏の論文が佳作に選考され栄えある樋口賞を受賞された。

樋口賞 論文賞のご紹介

(社)日本電気技術者協会の第2代会長 樋口左兵衛の意志に沿い、電気技術者としての知的・技術的・人間的向上に資する論文に与えられる賞で昭和44年に設けられている。

「アレキサンドリア幻想」

A 27 田中 瑛也

アレキサンドリアは、エジプトの都市ではあるが、エジプトの都市ではない。やや逆説めいた言ではあるが、アレキサンダー大王によってこの都市が建設されたのは、BC331年、ピラミッド、ツタンカーメン等、数々の建設物、遺宝を歴史に遺したエジプト王朝5000年の幕を閉じ、マケドニアの都市アレキサンドリアは生れた。

アレキサンドリアの灯台は、古代七不思議の一つとして有名ではあるが、この雄大な建築物は、海と言え、地中海との認識を持っていた当時の古代人の通商、交易に寄与した。地上120Mの壮観と共に、6KM先へも光を投げた威力は、大いに文明の興隆に役立てたことは、多くの史書によって現代に伝えられている。ファロス島の大灯台と一名では、呼ばれたこの灯台も史上幾多の変遷を経て、自然災害や 戦火等で崩壊のうき目を見た。後年 イスラム勢力の侵略で、イスラム教化さ

れたエジプトでは、マムル(スルタン(宗王)カイト・ベイによって、この都市を護る城塞を建設する為の資材へと崩壊に伴って発生した資材は転用された。文明は、崩壊するが、再生するとの一典型をこのアレキサンドリアの灯台は示している。建設資材として使われる石材は、古材を使用する方が、石を山から切り出し、製石する手間を考えると、はるかに手間が省ける。今日流に言えばリサイクル活用である。まことに経済的手法であるが、前時代の歴史を物語る記念物を壊して建て直す、歴史は記録にしか遺されたい。いささか淋しい想いがする。ところで、四大文明展の一つとして エジプト展が、上野国立博物館で開かれているがピラミッド語ることなくしてエジプトを語ることは出来なされた。ピラミッドも時代と共に変わる歴史観で奴隷を使って王の墓を建てたのではなく、古代をシンボル化するモニュメント、古代とは現代から見た古代であって、当時の人にとっては、彼らが生きていた時代という方がふさわしいが何のために造るのか。人民を労役として王朝がやと、賞銀を与え、人民の生活をうのおすとという説が、テレビでも報道されていたのを見ると、これ又、公共事業であり、失業対策でもある。天候の不順で、農産物の出来不出来で、貧困におちいる人民へと 統治者は救いの手をさしたべたとの論理である。かくして、地中海、幾千年の歴史の変遷を見ている自然の

みが 歴史のかくされた、真実を知っているのであらう。アレキサンドリアの話に戻るが、エジプトという国名は存続しているが、マケドニア人の手によって築かれた都市アレキサンドリア 第十四代の君主、プトレマイオス王朝の女王、美女として名高いクレオパトラも、又 エジプト人ではなくマケドニア人である。この史実は、シーザーとクレオパトラとしてオリエンタルの想いを抱かせる舞台も、同じヨウロッパ人種系の人間がくりひろげた愛憎劇であり、専制王制の王朝といわれた古代エジプトも、社会福祉国家であると論証づけられると古代王朝期エジプトのピラミッドも、クレオパトラの都アレキサンドリアも、幻想を抱いて見ていたのだとの想いがつくる。

訃 報

大先輩 長老重松武雄氏遂に大往生される。

大正4年応用化学卒業の重松武雄氏が今年の春、亡くなりました。享年百一歳でした。茲に改めて「冥福をお祈り申し上げます。」

関東青葦会会長
E12年卒上畑清郎さん
平成12年7月23日永眠享年81歳でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

信じられぬ別れ

M18 小川勝宏

M二一ノ二十一号で笹本先輩が訃報欄に丁寧な記事を寄せておられるので、今更紙面を汚すのもどうかと思うが五月十四日未明に急逝されたM16中野大八郎・俳号陽路氏の思いに触れさせていたたく。

氏と私との出会いは昭和六十一年秋の東郷会館での同窓会である。帰途喫茶店で俳句を復活したいと告げたのがきっかけとなった。当時氏は末黒野俳句会の同人会長であった。翌年一月に入会し爾来十三年間師弟の間柄であった。

昨 平成十一年四月、三代目主宰に就任されて以来、精力的な俳壇活動を展開され、末黒野の名を高められた。亡くなる二日前はゴルフをされた。翌日掛かり付けの医師に心臓が少し弱っているから気をつけなさいと言われ、薬ももらっておられた。発作の起きたとき、自分で服薬されたが効かず、信じられぬ別れとなった。

五月二十日すぎに大阪で開かれる同級会・北辰会の趣味展に俳句の色紙二枚を出され、自分も行くのだと楽しみにしておられた。色紙に遺された句は

明易き一と夜眼下に御堂筋
酔いさます宗右衛門町
走り梅雨

陽路
合掌
馬江

編集後記
紙面の関係上寄稿の一部を変更しております。ご了承願います。